

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

平成26年8月4日（月）～平成26年8月10日（日）【平成26年第32週】の感染症発生状況

第32週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)ヘルパンギーナ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

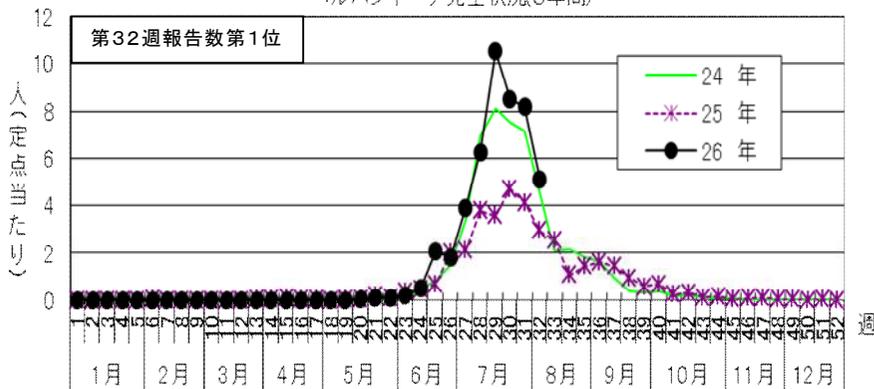
ヘルパンギーナは定点当たり5.13人と前週（8.18）より患者報告数は減少し、流行発生警報基準値である定点当たり6人を下回りました。

感染性胃腸炎は定点当たり4.90人と前週（3.67）より患者報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。

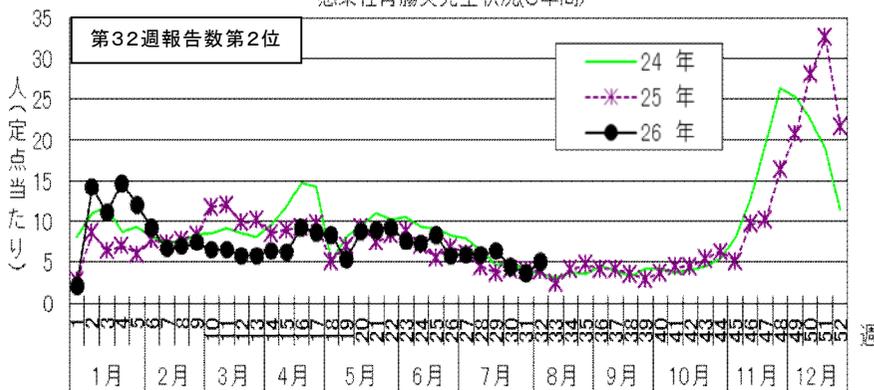
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり1.13人と前週（0.70）から患者報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。



ヘルパンギーナ発生状況(3年間)



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



蚊が媒介する感染症～デング熱～

海外では、熱帯・亜熱帯地域を中心に「マラリア」、「デング熱」、「チクングニア熱」などの蚊が媒介する感染症が流行しています。

特にデング熱に関しては、国内でも毎年100～200例程度の輸入例の報告があり、例年、海外旅行者が多い8・9月を中心に届出数が増加します。流行地域から帰国した後に発熱がみられた場合には、必ず医療機関を受診してください。

デング熱の特徴は？

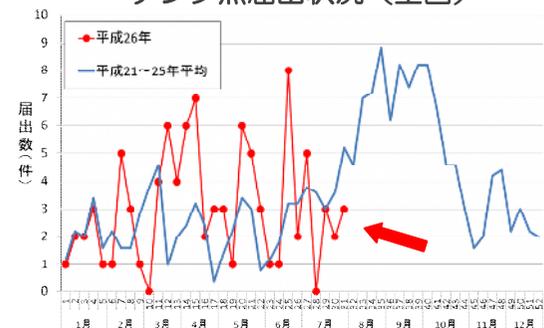
感染経路：デングウイルスを保有した蚊に刺されることにより感染します。

潜伏期間：3～7日間

症状：突然の発熱で始まり、頭痛・筋肉痛・関節痛を伴うことが多く、発症後3～4日で胸部・体幹から発疹が出現します。通常1週間程度で回復しますが、デング出血熱やデングショックとよばれる重症な状態になることもありますので注意が必要です。

アスピリンなどを含む解熱剤の使用は危険なので、必ず医療機関を受診しましょう。

デング熱届出状況（全国）



現地では、長袖と長ズボンを着用したり、虫除けスプレーや蚊取り線香を使ったりして、蚊に刺されないようご注意ください。

